

21 世紀 COE プログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

Establishment of World Organization for Kambun Studies

江戸漢学書目

2006 年 3 月

二松学舎大学 21 世紀 COE プログラム

江戸漢学書目 目次

目次	i
はしがき	iii
凡例	v

第一部 準漢籍書目

經部

易類	1
書類	21
詩類	27
礼類	
周礼	33
儀礼	34
礼記	35
三礼總義	36
通礼	37
雜礼	38
春秋類	
左氏伝	38
公羊伝	45
穀梁伝	45
諸伝・總義	45
孝經類	48
群經總義類	55
四書類	
大学	58
中庸	70
論語	76
孟子	91
学庸	98
論孟	100
四書	101

小学類

訓詁	105
字書	105

史部

正史類	106
編年類	108
別史類	108
雜史類	108
載記類	110
史鈔類	110
伝記類	
聖賢	110
名人	111
總録	111
史評類	111
地理類	112
時令類	112
職官類	112
詔令奏議類	112
目錄類	112

子部	儒家類……………112	藝術類……………130
	兵家類……………128	雜家類
	法家類……………128	雜學……………130
	医家類……………129	雜考……………131
	術數類……………130	雜說……………131
小說家類		雜纂……………131
	雜事……………133	斷代……………140
	異聞……………134	
	傳奇小說…134	總集類
類書類……………134		斷代……………140
積家類……………134		通代……………140
道家類……………134		
		尺牘類
		別集……………141
		總集……………142
		詩文評類……………142
		戲曲小說類……………142
集部		叢書部……………142
楚辭類……………140		
別集類		

第二部 日本漢文書目 (50 音順) ……………145

索引	
準漢籍書名索引……………219	
著者別索引……………347	

はしがき

ここに『江戸漢学書目』を刊行するにあたり、本学 21 世紀 COE プログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」と本書編纂との関わりを、簡単に述べておきたい。

我々のプログラムの調査研究対象は、日本において読み書きされたあらゆる漢文文献であって、決して文藝や思想に限るものではなく、量的にも夥しい数にのぼる医書・仏書等もこれに含まれる。なぜならば、近代以前の日本の学術と文化は、中国にその源流があり、全面的にその影響を蒙って、それが書籍のかたちとなってその根幹に位置し続け、伝承されてきたと考えられるからである。

しかしながら、そうした対象の広がりをも具体的に示した日本漢文文献の総合目録は、いまだ存在せず、本書に言う「漢学」も広義のそれではない。本書の収録範囲は、凡例に述べるとおり『国書総目録 補訂版』（岩波書店 1989～91）の分類（「漢学」と「儒学」）に依拠している。したがって、本書編集の意義は、むしろ従来の「漢学」「儒学」の範疇に類別されている書籍群に、何が入っており何が入っていないかを具体的に検証することにある、といえる。

現在、国文学研究資料館において鈴木淳教授を研究代表者とする、「日本古典籍分類概念の確立と古典籍総合目録データベースにおける分類化促進」の研究プロジェクトが進行中であり（2004～07 年度）、我々は漢文文献に関してこのプロジェクトと協力関係にある。そのプロジェクトでは、日本文学以外をも視野に入れた広闊な学問領域からの総合的な見直しのなかで、「日本の古典籍」に即したあるべき分類概念を構築することが目指されており、すでに高山節也拠点リーダーが漢籍書誌学の立場から、小曾戸洋協力者が医史学の立場から、専門領域の書籍分類に関してそれぞれの所見を報告している。本書もまた、『国書総目録』に言う「漢学」「儒学」の名称で包括された内容を解析することを通して、あるべき分類概念の構築のために積極的に資料を提供しようとするものである。

解析にあたっては、作業の手順として伝統的な漢籍分類法である「四部分類」法を採用

した。「漢学」「儒学」に分類されている書籍にはできるだけ四部分類を施す、その残りが「日本漢文」というわけである。ここにおいて本書は、いわゆる準漢籍（四部分類）と日本漢文（五十音順）の二部構成となっている。ただし矛盾するようであるが、筆者は必ずしもこれら分類を二部構成にすべきものとは考えていない。むしろ、準漢籍・日本漢文は、いずれも‘訓読’という方法によって読まれ、またその日本語（書きことば）を前提として著された、紛れもない日本の古典籍である以上、さらに進めて和刻本漢籍までを含め、‘日本の古典籍’としての分類の一本化が可能ではないかと考えている。また、すでにそうした方針で編纂された和漢書目録も存在する。

そのうえで言えば、‘四部分類’への適用作業は、「漢学」資料を俯瞰する上で、有意義であったと感ずるのである。本報告書に示した‘四部分類’の結果は、江戸期における漢学の実情をある程度反映しているものと見なしうる。その一方で、「漢学」に分類すること自体が疑問視される資料（『易』『占ト』のたぐい）や、史部・子部のうちあるものが歴史・武学武術等に分類されて、「漢学」から脱落しがちであること、また国書・準漢籍のいずれに分類すべきか困難をおぼえる資料（開斎学派の書籍群など）の存在など、『国書総目録』が著録する「漢学」資料をめぐる具体的な問題点が、一つ一つこの作業を通して顕在化してきている。

そしてここに、和刻本漢籍・準漢籍・日本漢文までをも含めた、国書の分類一本化をすすめる場合には、その分類概念のための資料として、またデータベース検索時の件名やキーワードとして、‘四部分類’法は活用できるのではないかと考えている。

なお、本書は、岡野康幸（COE プログラム研究助手）と筆者が主にその作業にあたり、適時、戸川芳郎顧問からの資料提供を得、また上地宏一研究協力者と協議して、作成した。本書には江戸期以前の書籍をも収録しているが、その大部分を江戸期の資料が占めるので、『江戸漢学書目』と題している。一言、お断りしておく。

（近世近代漢文班主任 町 泉寿郎 2006.03.25）

凡 例

- 一 本書は、日本における「漢学」分野の書籍を、現存・散逸を含めて、総体的に鳥瞰しようとする試みのもとに編集した目録である。
- 一 本書は、「四部分類」法によって編集した「第一部 準漢籍書目」と、「四部分類」に適合しない書籍を五十音順によって編集した「第二部 日本漢文書目」とに分かれる。巻末には、その両「書目」を併せた、編著者名別の書目を附した。
- 一 「第一部 準漢籍書目」「第二部 日本漢文書目」に記載する書誌情報は、国文学研究資料館のホームページに公開中の「国書基本データベース（著作編）」、並びに『国書総目録 補訂版』（岩波書店刊 1989～91）のなかから、分類項目の「漢学」「儒学」に分類されている書籍を抽出して再編した。
- 一 「第一部 準漢籍書目」に収める準漢籍とは、①中国の典籍に頭注・鼈頭・首書の形式で注釈の附してあるもの（例―藤原惺窩注『鼈頭評註四書大全』）、②中国の典籍に注釈・和訳を附してあるもの（例―荻生徂徠『論語微』、林羅山『性理字義諺解』）、③中国の典籍に基いて自説を展開したもの（例―浅見綱斎『愛之理心之徳説』）、④中国の典籍中から一部を抜き出しそれを敷衍したもの（例―『敬斎箴』）、などを指す。
①を和刻本漢籍と定義する場合もあるが、『国書総目録』のデータに基づく本書では、この定義に従わなかった。
- 一 本書の「四部分類」は『改訂 内閣文庫漢籍分類目録』（内閣文庫葉 1971）に拠るが、従わないものも若干ある。
- 一 「第一部 準漢籍書目」における各書の配列は、注釈の対象となっている漢籍が撰述されたその時代順による。ただし、同類同属内の各書の配列は、五十音順に拠る。
- 一 「第一部 準漢籍書目」において、「四部分類」をほどこす際に、寺田望楠撰『大日本経解目録』（井上巽軒旧蔵、東京都立中央図書館所蔵）、および林泰輔撰『日本経解総目録』（戸川芳郎氏抱長沢規矩也蔵本重鈔）を参照し、参照資料欄に寺田望楠撰『大日本経解目録』著録には「b」、林泰輔撰『日本経解総目録』著録には「c」を記した。
- 一 書名の右側に附す別書名の記号は以下のことを表す。
 - 【○○○○】―『大日本経解目録』に記されている書名。
 - （△△△△）―『日本経解総目録』に記されている書名。
 - 【□□□□】―『大日本経解目録』・『日本経解総目録』ともに同書名で記されている書名。なお、『国書総目録 補訂版』に別書名が附されている場合は、同書の普及度を考えて、これを省略した。
- 一 備考にある「大阪出版書」は「大阪出版書籍目録による」の略。「漢学者著述」は、「漢学者伝記及著述収覧による」の略。「漢学者著述等」は、「漢学者伝記及著述収覧等による」の略。「近世漢学」は、「近世漢学者著述目録大成による」の略。「近世漢学等」は、「近世漢学者著述目録大成等による」の略。「左伝年表・目録」は「日本左伝研究著述年表・並分類目録等による」の略である。これらの備考は『国書総目録 補訂版』に拠る。

江戸漢学書目

第一部 準漢籍書目

番号	書名	編著者	巻冊	刊年	国書分類	参照資料	備考	国書D B番号
經部 易類								
E00001	一陰一陽講義	浅見綱齋			儒学			636839
E00002	一陰一陽説	伊庭一貫堂	一冊		儒学		近世漢学	636840
E00003	一堂答問〔一堂先生答問〕	東条一堂口授 高島邦 〔高島正邦〕記	一冊		漢学	b		638277
E00004	殷易索考	上田利容	三卷三冊	文化一五刊	漢学	c		656837
E00005	易				漢学			3660148
E00006	易音考	岡本保孝 〔岡本況齋〕			語学	c		697961
E00007	易解	秋山景山			漢学		近世漢学等	697972
E00008	易解	大田錦城			漢学		近世漢学	697994
E00009	易解	金子鶴村			漢学	c	近世漢学	698000
E00010	易解	山崎淳夫			漢学		近世漢学	698022
E00011	易解	井上四明	六巻		漢学	c	近世漢学等	697983
E00012	易解〔易説〕	三輪執斎	四冊		漢学	b		698011
E00013	易会要目略図解	土肥貴雅 〔土肥鹿鳴〕	一冊		漢学			698033
E00014	易学階梯	皆川淇園	三巻三冊		漢学	c		698055
E00015	易学階梯	真勢中洲	二巻二冊	文政二刊	漢学			698044
E00016	易学階梯附言	谷川竜山	二巻二冊	文政一―刊	漢学			698066
E00017	易学開物	皆川淇園	二巻二冊		漢学	b c		698077
E00018	易学開物解	皆川淇園	一冊		漢学			698088
E00019	易学開物仮名解并唐音辨		一冊		漢学			698099
E00020	易学開物小註	池維嘉 大谷信一編	一帖	寛政頃	漢学			698102
E00021	易学卦象自在	井田龜学	三巻		漢学	b	近世漢学	698113
E00022	易学簡理証〔易学簡理証〕	高橋華陽	一冊	文化元跋	漢学	b c		698124
E00023	易学閑書	皆川淇園	一冊		漢学			698135
E00024	易学口号	中村習齋	一冊		漢学	c		698146
E00025	易学啓蒙意見	室田義方	四冊	元禄一〇	漢学			698157
E00026	易学啓蒙解〔啓蒙解〕	片岡如圭	五冊		漢学	b	近世漢学等	698179
E00027	易学啓蒙解				漢学			698191
E00028	易学啓蒙解	梁田毅斎	一二巻		漢学	c	近世漢学等	698180
E00029	易学啓蒙解	大野竹瑞			漢学		近世漢学等	698168
E00030	易学啓蒙閑書	味池直好 〔味池修居〕講 宇佐美順裕録	一冊		漢学			698204
E00031	易学啓蒙口義	浅見綱齋	一冊	明和六	漢学			698215
E00032	易学啓蒙口授	松岡渾成 〔松岡雄潮〕	一冊		漢学			698226
E00033	易学啓蒙諺解大成〔易学啓蒙諺解〕	榊原富洲	四巻四冊	天和四刊	漢学	b c		108690
E00034	易学啓蒙合解評林 〔易学啓学合解評林〕	毛利貞斎	八巻	享保五	漢学	b c		698237
E00035	易学啓蒙合解評林抄		一冊		漢学			698248
E00036	易学啓蒙講義	若林強斎	一冊		漢学			698328
E00037	易学啓蒙講義	浅見綱齋	三冊		漢学	c		698259